

# 令和5年 第4回定例会

## 一般質問 あまの 雄太議員

令和5年 11月30日

### ▶質問

大田区議会公明党のあまの雄太です。質問通告に従い、質問させていただきます。初めに、プレコンセプションケアについて質問いたします。

プレコンセプションケアとは、妊娠前のケアのことで、プレは前の、コンセプションは妊娠を意味しており、思春期以降の若い男女が体について、適切な時期に、適切な知識、情報を得て、自分たちの生活や健康に向き合うヘルスケアのことです。妊娠前からの健康管理をすることが元気な赤ちゃんを授かることにつながります。また、将来における妊娠希望の有無にかかわらず、健康に関する適切な知識、情報を得て、健康で質の高い生活を送ることは、仕事などの人生設計を広げていくことにもなります。こういった点から、プレコンセプションケアは国民全体における健康意識向上のためのケアと言えます。

もちろん将来の妊娠に備えるという点からも重要です。妊娠、出産には様々なりスクがありますが、30代後半以降の年齢になるほど、不妊や流産の割合は上昇するとされています。また、国立成育医療研究センターでプレコンセプションケアセンターの責任者を務める荒田尚子診療部長は、日本は妊産婦や新生児の死亡率が諸外国と比べて低いが、晩婚化や肥満、痩せの増加、子宮頸がんの検診率の低迷など、課題は多いとされています。体の状態や病気、生活習慣も妊娠中の合併症や出生児に大きく影響を及ぼし、妊娠が判明してからでは対応が難しくなる場合も多くあります。こういったことから、国においては、2021年2月に閣議決定された成育医療等基本方針の中で、性と健康の相談センター事業に同ケアを盛り込んでおります。

このように重要視されてきているプレコンセプションケアについての本区の認識をお答えください。

日本においては、プレコンセプションケアの認知度の低さが課題です。10月4日付けのメディカルトリビューン紙に掲載された記事によると、20歳から43歳の女性を対象にしたアンケートでは、同ケアの認知度は全体で22.4%であり、出産を経験していない方に限ると、「詳しくは知らない」、「全く知らない」が97.7%を占めるという結果だったそうです。

専門家によると、プレコンセプションケアで必要な行動は、新生児の神経管閉鎖障害を予防す

るための葉酸の摂取、性感染症や子宮頸がん検診、禁酒、禁煙、適切な体重の維持と言われております。特に葉酸不足による先天異常は妊娠7週までに発生するため、妊娠が分かってから葉酸を飲み始めても遅いと考えられており、妊娠の1か月以上前から妊娠3か月までの追加摂取が推奨されております。まさにプレコンセプションケアが必要なケースです。性感染症の検査については、男性も受けることが望ましいとされております。禁酒、禁煙、体重管理は妊娠前のケアとして知られておりますが、葉酸の摂取や性感染症などは意識できていない人が多いようです。妊娠前のケアは、インターネットなどによって、その一部は認知されておりますが、情報発信やカウンセリングなどでプレコンセプションケアを積極的に啓発していく必要があります。

このような現状から、同ケアの普及啓発の取組を始めている自治体もあります。愛媛県松山市では、少子化対策の一環として積極的な普及啓発を行っております。同市は本年4月から市のホームページに特集コーナーを開設し、思春期から健康づくりに取り組むメリットなどを説明しており、国立成育医療研究センターが作成した、プレコンセプションケアの入り口となるプレコンノートと、自身の健康と生活習慣などを見直し、管理するプレコン・チェックシートを掲載しております。さらに、本年8月から、将来の健康と妊娠、出産のために健康状態を調べるプレコンチェックに対して、上限3万円とする検査費用助成事業も開始しております。

現在、本区でも「女性の健康づくりを応援します！」という特集ページの中で、プレコンセプションケアについての説明が設けられておりますが、さらなる普及啓発が必要であると思います。そこで、若年世代対象の特定健診の受診票に啓発チラシなどの同封といった取組で認知度を高めることもできると考えますが、普及啓発に関する取組について、本区の見解をお聞かせください。

日頃からの健康意識の向上を目指すプレコンセプションケアは、特定健診の受診率の向上や、女性に対しては子宮頸がんワクチン接種推進にもつながっていく取組であると感じます。大田区でプレコンセプションケアの推進を強く要望いたします。

プレコンセプションケアは、身体的な将来に向けた準備と言えますが、子どもを育てる上での気持ちの準備としては、両親学級が一般的です。今月、第1子が産まれた私も両親学級に参加いたしました。沐浴の講習や妊婦体験をしたことで、具体的な子育てや妊婦の大変さを実感することができました。両親学級に参加したことで、僅かながらでも子育てのイメージを深めることができ、両親学級は本当に大事な講習だと感じております。

しかしながら、その参加枠数や開催日程に検討の余地があるのではないのでしょうか。今年度の開催回数は33回、参加枠は768組です。昨年度の区内出生数が5344人だったことを考えると約14%になります。両親学級は初産を対象にしているのですが、この割合は正確ではないと思いますが、夫婦で力を合わせて子育てをしていく時代だからこそ、両親学級は意識向上の場として大切であると考えます。より多くの夫婦が参加できるよう、工夫をしていただきたいところです。

その一つとして、現在は両親学級は土曜日のみ開催となっておりますが、勤務形態が多様化しておりますので、平日にも開催をしていただきたいという声がございます。本区におけるこれからの両親学級の在り方について見解をお聞かせください。

次に、高齢者に対するデジタルデバインド対策について質問いたします。

先日、区内にお住まいのご高齢の方のLINEアカウントが乗っ取られ、多くのご友人に対してギフトカードの購入を促すメッセージが発信されてしまったというお話を伺いました。残念ながら、ご友人の何名かがメッセージを信じて、ギフトカードを購入してしまったそうです。このように、若い世代であれば、SNSアカウントの乗っ取りによるメッセージ発信であることに気づくことができても、高齢者では被害に遭ってしまう危険性があります。昨今では、配送業者や銀行を装ったメールや、ホームページから個人情報抜き取るという詐欺も横行しています。

このようなデジタルツールによる犯罪から区民を守るためには、啓発活動とともに、スマートフォンなどにもセキュリティーソフトを入れることの推奨を区としても行う必要があるように感じます。それは、空き巣防止のために戸締まりを徹底すること、自転車盗難防止のためにはツーロックを推奨することと同様だと思います。このようなデジタルに関連する犯罪から身を守るといった点からも、高齢者がスマートフォンについて理解を深めることは重要であると感じます。

NTTドコモが設立したモバイル社会研究所による2023年1月の調査では、70代のスマホ所有率は79%となり、年10%程度増加しているとのこと。さらに同じ調査によると、スマホを所有している高齢者がデジタルデバインド、情報格差を感じる時という質問では、避難情報など災害に関わる情報伝達、QR決済、友人との連絡、意志疎通という項目が多くなっていました。災害情報、QR決済は行政にも関わることであり、友人との連絡は、人とのコミュニケーションといった点から、フレイル予防にもつながります。

本区では現在、デジタルデバインド対策として、高齢者向けのスマホ体験会・相談会を開催しております。体験会はテーマに沿った講義形式で、相談会は1対1の個別相談形式になっております。どちらもスマホに不慣れな高齢者の役に立つ取組ではありますが、まだ多くの高齢者の方にこの事業が知られていない、活用されていないように思われます。今後は一層の周知や開催形態の検討を行う必要があると感じます。

スマホ相談会については、出口の見える無料相談会や行政書士会による相談会のような定期開催が有効だと思います。相談者としても、この日に向けて相談事をまとめていこうという考えになり、利用しやすくなるのではないのでしょうか。また、現在、本区で積極的に進められているマイ・タイムライン講習会のように、希望する団体に出張するという形も効果的ではないのでしょうか。これらの講師については、今年度から始まり、本区でも活用事例のある、区や自治会・町会などがスマホの講師を派遣してもらうことのできる東京都の事業、TOKYOスマホサポーターによって

も確保ができます。

そこでお伺いいたします。デジタルデバインド対策として、東京都高齢者向けスマートフォン利用普及啓発事業についてお聞きするとともに、利用者の参加を促進するための工夫や広報活動について、区のお取組をお聞かせください。

また、高齢者のスマホにおけるセキュリティー意識向上については、行政としても積極的に働きかけていただきたいと要望いたします。

高齢者の抱えているスマホについての困ったをより多く解決できる取組となることを期待しております。

最後に、SDGsの意識啓発として、はねびょんグッズの活用について質問いたします。

本年の11月4日と5日に開催されたOTAふれあいフェスタ2023における「はねびょんを探せ！」というゲームの景品は、当イベントのために開発された、はねびょんがデザインされたオリジナルのステンレスボトルでした。キーワードを集めると先着2000名がもらえるステンレスボトルは大好評で、開催2日目のお昼過ぎには配付が終了したそうです。景品をもらえた方は大変に喜ばれ、もらえなかったお子さんは泣きながら残念がっておりました。いずれにしても、今回の景品には大きな反響が集まったようです。

そこで、この大好評のはねびょんステンレスボトルをSDGsへの意識啓発のために商品化することを提案いたします。今回開発されたボトルは180ミリリットルのサイズで、女性も子どももマイボトルとして持ち運びやすく、使いやすいサイズとなっております。マイボトルを持つことで、使い捨てプラスチック削減、CO2排出の抑制、また、今年の夏のように暑い日には、水分補給による熱中症対策にもなります。環境省によると、500ミリリットルのペットボトル1本当たりのCO2排出量は119グラムとされています。今回、景品としてはねびょんボトルを受け取った2000名の1割、200名が1日500ミリリットル相当の使用をして、ペットボトルの購入を控えたと仮定しますと、1日当たり23.8キログラムの排出量削減となり、1か月で714キログラム、年間で8568キログラム、排出量削減になる計算です。

また、CO2の排出量だけでなく、ステンレスボトルの製造を区内の業者に依頼することで、区内産業との持続可能な循環を目指すというSDGsの観点にもなります。さらに、売上げの一部をSDGsや環境に資する活用とすることで、意識啓発につなげることもできます。兵庫県尼崎市では、同様に市のオリジナルステンレスボトルを3000本製造し、完売。本年、追加製造を行い、計4000本の販売実績になっているそうです。本区においては、多くの区民に愛されているはねびょんの訴求力をSDGsの啓発に活かすことができると考えます。

以上のような点から、SDGs啓発の取組として、大田区のオリジナルはねびょんステンレスボトルの商品化を提案いたしますが、見解をお聞かせください。

本区におかれましては、引き続き、若い世代も高齢者も安心して元気に暮らしていくことのできる大田区、そして、持続可能なまち大田区の実現を目指していただきたいことを求め、私の質問を終わります。ありがとうございます。

## <回答> .....

### ▶大木産業経済部長

私からは、はねぴょんグッズの商品化に関するご質問にお答えをいたします。

大田区の公式キャラクターであり、観光PR特使でもあるはねぴょんは、イベント等で区民の皆様と直接触れ合うとともに、SNSや健康ポイントアプリ、公園遊具、マンホールなど、様々な場面で大田区の魅力発信に貢献をしております。こうしたはねぴょんの活用は、SDGsの啓発をはじめ、様々な区政の取組への興味関心の喚起に一定の役割を果たすことが期待できます。はねぴょんグッズは、現在、観光協会での有料販売のほか、無料配布のノベルティーを合わせ 20 種類余りを開発、販売しております。今後も多くの区民、来訪者等に大田区をPRしていくためのグッズを開発していく中で、ご提案のステンレスボトルの商品化についても、観光協会と共に検討をまいります。私からは以上です。

### ▶張間福祉部長

私からは、高齢者向けのスマートフォン利用の普及啓発に関するご質問にお答えさせていただきます。

高齢者がコミュニケーションツールや趣味活動等に関する情報収集の手段としてデジタル機器の便利さを知り、日常生活をより豊かにしていくためにも、スマートフォンの正しい利活用方法について普及啓発を推進していくことは重要と考えてございます。区は、東京都と共同で高齢者向けスマートフォン利用普及啓発事業を実施しております。操作の演習を行う体験会や個別質問ができる相談会では、インターネット検索や不審なメールへの対応等、参加者のニーズに合わせて、スマートフォンの利用に関する疑問や不安の解消につなげております。さらに昨年度から、同じ会場で定期的に実施する定期相談会を開催しております。これまで予定が合わずに参加できなかった地元の方や再度相談したい方などがご都合に合わせて参加しやすくなったものと認識しております。こうした講座の情報は、区ホームページのほか、高齢者の方が集まるイベントや地域包括支援センターで周知用のチラシを配布したり、また、自治会・町会掲示板に掲示していただくなどで広報しております。

高齢者向けのスマートフォン利用の普及啓発に関しましては、他部局で実施しているスマートフォン講座、東京都のTOKYOスマホサポーター制度や、通信事業者等が行う高齢者向けス

スマートフォン教室など、様々ございます。今後は、様々な主体が実施する取組と併せてご活用いただけるように、引き続き、関係部局との情報共有や地域への周知に工夫を図りながら、高齢者のスマートフォンの正しい利活用が普及するよう、支援をしております。私からは以上です。

## ▶森岡健康政策部長

私からは、プレコンセプションケアに関する三つのご質問にお答えいたします。

初めに、プレコンセプションケアに対する区の認識についてですが、働く女性が増える一方、晩婚化などで不妊に悩む方が多くなっており、若いうちから日々の生活習慣や健康と向き合うプレコンセプションケアは、豊かな人生を送るために非常に重要な取組でございます。ライフプランやキャリアプランはライフステージの状況に応じて変化しますが、多様な選択肢の中でも、妊娠、出産の選択には適切な時期がございます。若い世代の男女が将来の妊娠を見据えた健康管理を行うことで、子どものいるライフプランを選択できる可能性が高まり、生まれてくる子どもが健康である確率も高まります。今後、女性の社会進出が一層進む中で、若い世代がより健康になり、ライフプランとキャリアプランを両立させて、希望する人生を歩んでいただけるよう、区としてもプレコンセプションケアを推進してまいります。

次に、普及啓発についてのご質問です。プレコンセプションケアを普及させるためには、妊娠を望んでいる女性だけでなく、男女を問わず、思春期以降の若者や、若者の健康を支える家族、あるいは事業者にも広く啓発することが必要です。そのため、区ホームページにプレコンセプションケアの基本的な考え方とともに、議員お話しの男女別のプレコンチェックシートを掲載し、健康づくりのポイントなどをお知らせしております。また、今後、二十歳のつどいや区内の大学などでリーフレットを配布するほか、20代、30代の女性へ送付する子宮頸がん検診のご案内にプレコンセプションケアに取り組むメリットを記載するなど、さらなる周知を検討しております。加えて、男女ともに仕事と育児を両立できるよう、プレコンセプションケアに対する事業者の理解促進にも取り組んでまいります。

最後に、両親学級に関するご質問です。妊娠期に親になる自覚を促し、妊娠、出産、育児に関する知識や技術を学ぶことは、家庭における安定した育児の実践につながるものと考えております。そのため、区では、土曜日に両親学級、平日に母親学級を開催しております。しかし、近年、両親学級の需要が高く、今年度を実施回数を増やしたものの、希望する回に受講できないと

いったケースがございます。また、就労している女性が増え、男性の勤務形態も多様化する中、家庭の状況に応じた柔軟な事業運営が求められております。こうしたことから、今後は、土曜日、平日ともに定員を拡充するほか、出産準備のための講座として、男女を問わず、また、両親でもお一人でも受講可能にするなど、より多くの方が希望する時期に受講できるよう、事業の見直しを検討してまいります。以上でございます。